

令和3年度の活動報告（4月～6月）

関東大会地区予選（4／18）

男子（会場 千葉西高校）

準々決勝 経済大附 2-0 ○
準決勝 検見川 2-0 ○
決勝 千葉西 2-0 ○
結果 1位 千葉県予選会出場が決定

女子（会場 千葉北高校）

準々決勝 渋谷幕張 2-0 ○
準決勝 幕張総合 2-1 ○
決勝 千葉北 2-1 ○
結果 1位 千葉県予選会出場が決定

感染拡大防止のため、例年と比べ十分な練習時間が取れない中、「男女ともに関東大会出場」を目標に、まずは地区予選を1位で抜けることを目指し、モチベーションを上げて練習を続けてきました。男子は危なげない試合を展開し、決勝のシングルスで1ゲームは取られましたが、それ以外の全試合をストレートで勝利。県予選に向け弾みを付けました。3年生の安藤、高橋、西條、青木が相手に流れを渡さないゲームを展開し、2年生の塚田、山口、渡邊がそれを支える、全メンバーが各ポジションで活躍を見せる勝ち方ができました。県予選でも全員の活躍が期待できそうです。

女子は初戦で苦戦する場面があり、1回戦のS1で1ゲームを取られ、準決勝でもD1を落とすなど、今後の課題となる部分が見える試合がありました。しかし、取られても他のメンバーでカバーできるチーム力も見られました。特に序盤から落ち着いた試合を展開できた吉田、北見、小松の活躍は大きかったです。決勝では県大会を想定し、強く勝つことを目的に真っ向勝負で挑みました。結果は相手の1番手のダブルスを2番手の北見・木村で抑え、完全勝利をすることができました。これで本大会では男女ともに優勝。決勝ではいずれもホーム会場のチームを制するという良い形で、地区予選を通過することができました。



地区予選を男女ともに1位通過。（推薦を除けば男子は12年ぶり、女子は2回連続）
関東大会出場のための1つ目の目標をクリア。県予選では切磋琢磨しあった第8地区の
他のチームとともに、地区代表として自信と誇りを胸に戦い抜きたい。

関東大会千葉県予選会（4/29・30）

男子（会場 1日目 千葉敬愛高校、2日目 千葉公園体育館）

1 回 戦 白 井 2-0 ○

2 回 戦 若 松 2-1 ○

3 回 戦 千葉敬愛 0-2 ●

結 果 ベスト16 千葉県総体（学校対抗戦）への出場が決定

女子（会場 印西市松山下公園体育館）

1 回 戦 市 川 南 2-0 ○

2 回 戦 千葉日大 2-0 ○

3 回 戦 松戸国際 1-2 ●

結 果 ベスト16 千葉県総体（学校対抗戦）への出場が決定

昨年度は関東大会が中止となり、それに伴いすべての予選が中止となりました。悔しい気持ちを飲み込んで引退・卒業していった昨年の卒業生たちの想い、また、こうして試合が開催されることへの感謝を胸に大会に臨みました。

男子は1回戦のD1S1ともに2ゲーム目で失点を多く許すも最後は落ち着いたラリーで抑えストレート勝ち、2回戦はダブルスを確実に取る作戦でしたが、初戦でしっかり体を作れた安藤、高橋、西條を中心に相手を圧倒し、目標最低ラインのベスト16以上が確定。3回戦は4位シードの千葉敬愛でした。関東大会に出場するためには千葉敬愛に勝利する以外の道は厳しいので、ここに勝てるよう練習を積み重ねてきていました。結果はD1の安藤・高橋のダブルスが1ゲームを取る粘りを見せ、3ゲーム目も終盤までくらくらしていきましたが惜しくも負けてしまい、D2の西條・塚田も1ゲーム目終盤で打ち切りとなりました。打倒はできませんでしたが、最終結果を見てもベスト4を相手に一番粘ることができたチームであったと思います。自信と希望を持ち、県総体へ向かいたいです。

女子は地区予選での反省を生かし、序盤からしっかり動ける状態を作って挑みました。1回戦は今回高校デビュー戦となる1年生の黒川をS1に抜擢。昨年の中学3年生たちも同様に最後の大会が開催されないという悔しい想いがあったと思いますが、それを払しょくするかのように序盤から気持ちの入ったプレイで相手の1番手に対しペースを握り、劣勢になったときも冷静に戦い逆転、しっかりと勝つことができ、チームも2-0で1回戦を突破しました。2回戦もS1で相手の1番手が来る形となりましたが、今度は3年生の小松が持ち前の粘り強さで接戦を制し、2-0で2日目の3回戦へと進みました。3回戦は4位シードの松戸国際でした。私たちは女子部歴代初の関東大会出場を目指し、ここに勝つために練習してきました。相手について分析できていたので、まずはチーム1の勝負強さを持つ北見・木村をD1に抜擢しました。期待通り1ゲーム目は接戦を制し22-20、2ゲーム目は17-20で負けている状況からひっくり返し22-20の逆転勝利、完全に流れをつかむことに成功しました。D2は1番手同士の戦い。初戦の相手の出足の硬さを突くことができ1ゲーム目を21-15で完全に抑え、2ゲーム目も14-7まで圧勝ムードでしたが、そこで見せた一瞬の気の緩みがこちらの守りの粗さや隙を生み、相手も序盤で見せていたようなミスが減り徐々に点差を詰められ、最後は21-19の大逆転負け、流れも持っていかれ3ゲーム目は15-21で敗戦となりました。非常に悔しい敗戦となりましたが、ここまで戦ったことで県総体への出場を決めることはできました。失敗や悔しい敗戦は成長のために必要です。もう一度チーム戦で挑戦できることと1・2年生がこの試合を経験できたことを前向きにとらえ、全力で次の試合に挑みます。

千葉県総体地区予選（5／5ダブルス 5／9シングルス）

男子（会場 幕張総合高校看護科）

ダブルス

5 位 安藤・高橋 県大会出場
7 位 山口・渡辺
3回戦敗退 西條・塚田
青木・高齊

シングルス

5 位 高橋 県大会出場
7 位 西條
3回戦敗退 塚田

女子（会場 千葉女子高校）

ダブルス

5 位 齊藤・園田 県大会出場
3回戦敗退 北見・木村

シングルス

6 位 園田
3回戦敗退 北見

男女各種目の県大会出場枠が5枠ずつの第8地区。各校のエントリー数が4枠までとなるため、この枠に入るには県を代表する強豪校「敬愛学園に勝つ」か、「他の高校の中で1番」を取るしかない状況となります。ただ、「敬愛学園に勝つ」ことが選手たちが成長し、かつ県の上位で戦えるための十分条件となりうるため、地区では男女ともに打倒敬愛学園を目標に練習してきました。敬愛学園相手には、ダブルスで安藤・高橋、北見・木村、齊藤・園田が19点以上、シングルスで安藤、高橋が18点、園田が23点まで迫るゲームを作り、齊藤は1ゲームを取った上で、マッチポイントを先にとるところまで迫りましたが、惜しくも及びませんでした。しかし、目標を明確に持ち、モチベーションを失わず、練習を積み重ねれば少なくともここまで迫ることができることは証明できたと思います。

敬愛学園に勝つことはできませんでしたが、次は厳しい戦いに勝ち続けなければ成し遂げられない「他の高校の中で1番」である5位の枠を狙います。1度負けても集中力と体力を切らすことなく勝ち進まなければなりません。結果苦しい中粘り強く戦い抜き、男女ダブルスと男子シングルスで5位を勝ち取りました。女子シングルの園田は5位決定戦の相手が本日2回目の敬愛学園戦となりましたが、23-25、18-21と気持ちを切らさず戦い抜くことができ、県大会は逃しましたが次の代へ希望を繋げました。

この日同じ地区の多くの3年生が引退することとなりました。また、1ヶ月後の県総体は県のほとんどの3年生にとって最後の試合となります。バドミントンを引退する選手も多いと思います。地区や県とともに戦ったライバルたちの想いや仲間たちとバドミントンに懸けてきた自らの想いを胸に、最後の1点まで諦めず全力で戦い抜いていきます。



第8地区は県16以上のチームが男子3校、女子4校と、敬愛学園を先頭に総合力の高いチームが揃う地区。少ない枠を懸け、激戦を勝ち抜かないと県大会へ進むことができない。地区大会においても常に県のレベルを意識した戦いをしていきたい。



千葉県総合体育大会（6／11・15・16）

男子（会場 団体戦・ダブルス 市川塩浜体育館、シングルス 印西市松山下公園体育館）

団体戦

1 回 戦 千 葉 南 3-0 ○ ダブルス 安藤・高橋 1 回戦敗退
準々決勝 千葉敬愛 0-3 ● シングルス 高橋 1 回戦敗退
結 果 ベスト8 第5位入賞

女子（会場 団体戦・シングルス JFE 体育館、ダブルス 千葉公園体育館）

団体戦

1 回 戦 千葉敬愛 0-3 ● ダブルス 齊藤・園田 1 回戦敗退
結 果 ベスト16

3年生にとって最後の試合となる総合体育大会。男子の初戦は公立校トップの実力を誇る千葉南高校。1年前この代の初めての練習試合の相手でその時は負けてしまいましたが、相手は関係なく、この1年間の努力と自分たちの力を信じて試合に臨みました。2面展開で同時に入ったD1D2は緊張で動きも固く、ともに1ゲーム目を取られてしまいピンチに陥りましたが、2ゲーム目から徐々に本来の動きを取り戻し、攻撃的展開から2ゲーム目の接戦を制し、3ゲーム目は接戦ながら常に優位に立ち、点差は縮めさせない粘りでD1D2ともに逆転勝利を収めました。特に安藤・高橋は3年間で一番良い動きを見せました。S1にはここ1ヶ月で成長著しかった渡邊を抜擢。緊張がみられましたが、序盤の接戦の状況でも丁寧につなげながら相手の体力を削ぎ、後半は楽な戦いができ、2-0での勝利を収めました。S2S3はなにが起ころか分からないので、このS1勝利がチームの勝利に大きく貢献しました。準々決勝は関東大会で対戦している千葉敬愛への再挑戦。D1西條・塚田が2ゲーム目の後半をリードする形で迎えるも最後は逆転され19-21で敗戦、D2安藤・高橋も3年生ペアに1ゲーム目で18点まで迫るも力尽き敗戦、S1青木は1ゲーム目1桁で取られるも、2ゲーム目は持ち前のやりづらさを発揮し、中後半まで接戦、最後は17-21で敗戦となりましたが、千葉敬愛に食らいつく姿に、プレイ中に会場内の公立校からの応援の拍手も受け、最後まで粘り強く戦い抜くことができました。

女子は初戦が県2位の千葉敬愛となりました。D1S1は相手の攻撃に対してしっかり繋ぎながらゲームを展開するも、ミスの差で徐々に引き離され敗戦、D2は3年生の小松吉田が圧倒的な相手にも序盤は必死に食らいつき粘りを見せましたが、最後は圧倒的な差を見せつけられ敗戦。ベスト16での敗戦となりました。

最大目標のベスト4は達成できませんでしたが、男女ともにこの1年間で大きく成長を遂げました。しかしすぐ次の1年が始まります。2年生は、3年生とともにこの1年間で経験した嬉しさや悔しさを忘れずに、1年生は、2年生とともに戦える実力をつけチームに貢献できるように、目標をもって練習に励んでいきます。応援ありがとうございました。



ここからは令和2年度8月～3月の活動報告です。

8/9 成田遠征

今年は県外遠征を中止とし、県内での遠征試合を行いました。

県内6校で新人戦形式の2複3単の団体戦と個人戦を行いました。結果は

男子 5勝0敗 女子 4勝1分

で、男女ともに最高成績で終わることができ、夏季大会・新人大会へ向け順調な滑り出しとなりました。今年は様々な制限があり、なかなか団体戦を行うことができないなかでの実施となりましたので、新チームとして非常に良い経験ができました。準備・企画に携わっていただいた先生方ありがとうございました。



夏季大会（団体戦は行わず、個人戦の結果にポイントを付与し、その合計点で順位を決定）

| | | | | |
|----|-------|-----|-------|---------|
| 男子 | ダブルス | 第3位 | 西條・塚田 | （4ポイント） |
| | シングルス | 第3位 | 安藤 | （6ポイント） |
| | | 第5位 | 高橋 | （2ポイント） |
| | 団体順位 | 第2位 | 合計 | 12ポイント |

| | | | | |
|----|-------|-----|-------|---------|
| 女子 | ダブルス | 第3位 | 齊藤・園田 | （4ポイント） |
| | シングルス | 第5位 | 齊藤 | （2ポイント） |
| | 団体順位 | 第3位 | 合計 | 6ポイント |

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で対策を講じての大会実施となったため、エントリー数が半分に、応援生徒も不在、団体戦も中止となりました。そのためいつもとは違う静かな戦いとなり、ペースも乱れる試合もありましたが、男子は目標通り、女子も最低限のラインを確保し、夏休みを終えることとなりました。男女ともに新人大会での県ベスト8以上を確保できるよう練習に励んでいきたいと思えます。

男子

令和2年度新人大会地区予選

団体戦 2位
シングルス 6位 安藤

男子団体戦では11年ぶりの新人大会地区2位以上となりました。相変わらず敬愛学園の壁が厚いですが、ダブルスではあと一步でゲームが取れるところでの敗戦、シングルスでは高橋が敬愛学園3番手からゲームを先取し、ファイナルゲームでゲームポイントを取りながら負けてしまったので、夏と比べても接近していることは確実です。来春には勝てるよう努力を続けていきます。また、団体戦において1年生の成長もあり、地区の他のチームをリードする形はできました。関東大会の地区予選では確実に地区1位を取れるよう目標をもって練習していきます。

令和2年度新人大会

団体戦 組み合わせにより2回戦から
2回戦 ●0-3 中央学院 初戦敗退

シングルス 安藤 2回戦敗退

団体戦は中央学院が初戦の相手となりました。第1シングルスで安藤が26点まで粘るなど、良い場面は見せましたが、そこまででした。個人シングルスでは安藤が第3地区の1位の選手に、1ゲーム目を取られるも中盤から取り戻し2-1の勝利で2回戦へ。2回戦は中央学院3番手の選手との試合で、乗り切れない部分もありながらも接戦となりました。1ゲーム目を落とした2ゲーム目では終盤に流れをつかみ20-18とリードしながら、最後の1点をとれず0-2の敗戦。

新人大会全体を通し、全体的に強豪相手にも接戦に持ち込めるだけの成長は見せられたと思います。しかし、最後の1点を取りきる力は上位チームとの差を感じます。これが次の課題です。来春にはより成長した姿を見せられるよう頑張ります。

女子

令和2年度新人大会地区予選

団体戦 2位
ダブルス 3位 齊藤・園田
6位 小松・木村朱
シングルス 5位 園田
6位 齊藤

女子団体戦では7年ぶりの新人大会地区2位となりました。敬愛学園が個人戦で上位を占める本地区では県大会出場の難易度が非常に高いのですが、女子は全種目で県大会出場となり、運も味方につけ試合でも実力を発揮できました。団体戦でも練習の状態を試合に出すことができ、落ち着いた試合運びで着実に決勝へ進みました。決勝の敬愛学園戦でも1年生の園田・木村朱のダブルスが惜しいゲームを展開し、次年度へむけ希望の持てる試

合ができました。個人ダブルスでは齊藤・園田が敬愛学園の3番手を2-0で破り3位となりました。チームとしても地区としても非常に大きな役割を果たしました。終盤のラリーでは緊張を跳ね除け、落ち着いてコースを狙って行き、相手のペースを作らせない非常に良い形ができていました。

令和2年度新人大会

| | |
|-------|--------------------|
| 団体戦 | 組み合わせにより2回戦から |
| | 2回戦 〇3-2 国分 |
| | 3回戦 ●0-3 西武台千葉 |
| | 3回戦敗退（ベスト16） |
| ダブルス | 小松・木村朱 1回戦敗退 |
| | 齊藤・園田 3回戦敗退（ベスト16） |
| シングルス | 園田 1回戦敗退 |
| | 齊藤 1回戦敗退 |

団体戦は初回戦から昨年度1年生中心にベスト8だった国分高校。夏の成田遠征では引き分けただけに、非常に良いチームとの初戦となりました。ダブルスで1-1となり、勝負の第1シングルスとなりました。今年1番の成長株として送り出した1年生の北見が緊張の場面でも力を発揮し、途中から完全に相手を圧倒しました。最後は2-1-3で完全に抑え、チームの流れを渡さない状態を作ることができました。第2シングルの齊藤は夏の遠征の際26-28で敗れた学年別大会ベスト8の選手との再戦。夏よりも粘り強さとスタミナが増し、今回は28-26でゲームを先取しましたが、2、3ゲーム目で接戦の終盤にミスが重なり、1-2で敗戦。成長を見せるも一歩及びませんでした。第3シングルスは相手の2番手とこちらの1番手の為、落ち着いた試合運びで2-0の勝利となり、チームも3-2の勝利。5年ぶりに女子新人大会ベスト16となりました。その後、西武台千葉との試合では、千葉県トップの力を同じコートで試合をすることで感じる事ができました。0-3の敗戦も非常に勉強になった試合となりました。

個人戦ダブルスでは齊藤・園田がベスト16まで進むも、ベスト8を懸けた千葉聖心との試合で、勝っている展開から終盤に逆転される、悔しい試合となりました。シングルスでも練習試合では勝利している相手に2ゲームとも20-22で敗れるなど、団体戦と比べると力を発揮しきれない部分が見えました。

チーム全体として終盤負けていても追いつく力はあるのですが、そのあとの接戦の終盤での展開や、緊張の場面でショットの選択や視野が狭くなっているのは男女ともに課題です。このようなゲームを制する力を付け、あと一つ上のステージで戦えるよう練習をしていきます。

12/19,20 バドミントン強化講習会に参加しました。

日本代表チームのコーチ指導の下、中学・高校生対象の強化練習が行われました（12/19シングルス、12/20ダブルス）。本校からは女子4名が参加、市原市にある東日本で唯一のバドミントン専用体育館にて、普段の練習でも活用できる練習を学び、同時にレベルの高い指導を受けることができました。また、公立高校は本校のみでしたが、昭和学校や敬愛学園など県上位の私立高校との交流も、選手たちにとって刺激になりました。



3/28 新潟遠征

春季合宿が中止となったため、代替として新潟湯沢で行われた強化交流会に参加しました。感染症対策のため、人数は少人数で宿泊は行わず、日帰りで1日目のみの参加としました。開催に際しては参加チーム数を絞った上で、健康チェックシートの提出や、消毒・換気の徹底など、感染症対策が施されていました。試合はリーグ戦形式で2複1単の団体戦を行い、最後には大会アンバサダーでもある日本代表の坂井一将選手との交流も行われました。

主な試合結果

男子

リーグ戦

- △1-1 市立長野（長野）
- 0-3 日本文理（新潟）
- 3-0 県立前橋（群馬）
- 0-1 市立長野とのD2再試合

交流試合（1ゲームマッチ）

- 2-1 加藤学園（静岡）

女子

リーグ戦

- 0-3 日本文理（新潟）
- 1-2 聖和学園B（宮城）
- 2-1 高崎商大附（群馬）
- 0-3 富山商業（富山）

他県の体育館で他県の上位校との試合は独特の空気と緊張感がありますが、男子は遠征経験の多い2年生を中心に落ち着いた試合を展開し、県ベスト8のチームとは互角以上の試合ができました。女子は初めての遠征試合で、いつもと違う雰囲気。序盤は浮足立った試合もあり苦しい展開が多かったですが、中盤県ベスト8のチームに対してD1S1で試合を決めるなど練習の成果が出た試合もありました。男女ともに4月の関東大会予選や5月6月の県総体へむけて、非常に良い経験を積むことができました。良かった部分は自信につなげ、反省点は本番までの練習課題とし、県ベスト8以上と関東大会出場を目標に練習に励んでいきます。また、遠征メンバー以外も春休み中に1週間かけて春季合宿の一部メ

ニューを全員が乗り越えました。来年度も市立千葉の誇りを胸に部員一丸となって大会に臨んでいきます！



感染症対策を施しながら、貴重な大会となりました。1日のみの参加でしたが、収穫の多い1日となりました。



千葉県ではあまり見られない雪と山。雪に風が当たって感じる独特の空気と匂いを感じながら試合に臨みました。



新しい生活の中で、失ったものを取り戻すため、多くの企業ができることを模索し、協力し合い、努力しているのを感じました。3年生にとって最後の大会を無事迎えられるよう、しっかりと感染症対策に取り組んでいきたいです。